

第49回夏季大学「地球温暖化入門」の実施報告

教育と普及委員会

日本気象学会は、最新の気象学の普及を目指して、学生・大学院生、小・中・高等学校の教諭、気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に、毎年夏休みの時期に「夏季大学」を開講している。今回の夏季大学は、2015年8月1日（土）・2日（日）の2日間にかけて、気象庁講堂で開講した（主催：（公社）日本気象学会；後援：気象庁、日本地学教育学会、（一財）気象業務支援センター、（一社）日本気象予報士会）。

2015年のテーマは地球温暖化とし、タイトルは「地球温暖化入門」とした。地球温暖化が顕在化し始めた今日において、温暖化現象を正しく理解するには、見かけ上複雑な気候変動の背後にある気候システムの本質的な理解が必要となっている。このような背景から、今回の夏季大学では「地球温暖化」をキーワードとして、理論・観測・数値シミュレーションにより明らかになってきた地球温暖化のメカニズム、将来の気候変化予測等の幅広い内容について、専門家を招いて講義を行った。

今回の夏季大学の受講生は100名を超え、当日は会場の席が満席になる大盛況であった。

夏季大学当日は、以下のスケジュールに沿って進化した。

[プログラム]

第1日目 8月1日（土）

- 開講挨拶
（田中 博 教育と普及委員会委員長）
 - 講師紹介と夏季大学の概要紹介
（三上正男 教育と普及委員会副委員長
津口裕茂 教育と普及委員会委員）
 - 「観測データからみた地球温暖化」
（首都大学東京 藤部文昭氏）
 - 「地球温暖化の仕組み」
（宇宙航空研究開発機構 中島映至氏）
 - 「地球温暖化予測研究の現状と課題」
（東京大学大気海洋研究所 渡部雅浩氏）
 - 「日本の温暖化と地域社会の適応を考える」
（筑波大学計算科学研究センター 木村富士男氏）
- 第2日目 8月2日（日）
- 「地球表層の温室効果ガス動態とその変化」
（国立環境研究所 伊藤昭彦氏）
 - 「海洋と地球温暖化」
（海洋研究開発機構 鈴木立郎氏）
 - 「気候変動と水資源マネジメント」
（東京大学生産技術研究所 沖 大幹氏）
 - 「長い時間スケールの気候変化」
（北海道大学 吉森正和氏）
- 閉講挨拶
（岩田 修 教育と普及委員会委員）

講義の様子を第1～2図に示す。



第1図 開講挨拶。



第2図 講義風景。

今回の夏季大学では、前回同様に講義一コマを60分で行った。今回は時間に比較的余裕もできたが、休憩時間が短いとの指摘もあるので、講義時間については引き続き検討していく必要がある。

また、各講義後の質問時間や休憩時間には、専門的な内容に触れて講師に質問する熱心な受講生の姿も見られ、テーマについての関心が高かったことが印象的であった。

夏季大学は学会員以外への気象学の普及・啓発を目的の一つとして実施しており、非学会員の受講生も多く、引き続きその目的を果たせたと考えている。今後

も多くの方々に気象学の魅力を伝えられるような企画を立案し、夏季大学を門戸の開かれた専門的な気象学の学習の場として運営していければと考えている。

なお、講義資料については、学会のホームページ等で開示してほしいとの声も多い事から、今後そのあり方についても検討していきたいと考えている。

最後に、多忙にも関わらず、夏季大学の講義を快く引き受けて下さった講師の皆様へ深く感謝する。また、当日の運営のお手伝いをされた気象予報士会の皆様へ感謝する。